

過去の印象的な経験への感情と意味づけ

-幸福感との関係-

○橋本 京子 (滋賀大学経済学部附属リスク研究センター)

キーワード: 幸福感, 経験, 感情

目的

生きていく中で人間は様々な経験をする。その中で特に印象に残る経験をどのように位置づけ、意味づけているかは現在の生き方や健康にも大きな影響を及ぼすと考えられる。

本研究では、大学生に人生で最も印象に残った経験を想起させ、その感情価と意味づけを検討する。さらに幸福感との関連も検討する。

方法

調査対象者 看護学科・言語聴覚学科の大学生 70 名。男性 20 名 (平均年齢 18.75 歳), 女性 50 名 (平均年齢 18.35 歳) 質問紙の構成 学部学科, 学年, 性別, 年齢と以下の(1)(2)。

(1) 幸福感: The Satisfaction With Life Scale (SWLS; Diener, Emmons, Larsen, & Griffin, 1985) 5 項目に、筆者が独自に考案した 6 項目を加えた合計 11 項目。5 段階評定 (1~5)

(2) 印象に残った経験: これまで生きてきた中で最も印象に残っている経験を 1 つ想起させ、以下について問うた。(2)-1 経験の感情価: その経験が否定的な感情で想起されるか肯定的な感情で想起されるかを 7 段階で評定させた (1: 非常に否定的な感情~7: 非常に肯定的な感情) / (2)-2 経験の内容: 「学業」「進路」「友人関係」「恋愛関係」「家族」「部活・サークル」「経済」「健康」「どれでもない」「特定できない」から 1 つ選択させ、差し支えない範囲で内容を記述するよう求めた。/ (2)-3 経験の時期: 自分が何歳の時に経験したかを回答させた。/ (2)-4 現在における経験の意味づけ: 具体的にどのような意味で印象に残っていて、自分の現在にどのように意味づけられているか自由記述を求めた。/ (2)-5 未来における経験の意味づけ: 経験が自分の将来にどのように意味づけられていて、どのような影響を与えるかについて自由記述を求めた。

調査時期と方法 2015 年 7 月, 授業時間の一部を利用して, 集団形式による無記名式の質問紙調査を実施した。なお, 調査冊子 p.1 において, 倫理的配慮 (プライバシー保護, 調査への参加は自由で中断も可能であること等) を記載した。

結果と考察

幸福感尺度について因子分析を行ったところ, 1 因子構造が確認されたので, 11 項目全ての合計得点を幸福感得点とした (平均 36.77 点, $SD=7.73$)。経験の感情価の平均値は 4.97 点 ($SD=1.94$) であった。幸福感と経験の感情価の関連を調べるために相関係数 (Pearson の r) を求めたところ, $r=.156$ となり有意ではなかった。そこで, 感情価得点が 1~3 点の者を「否定的感情群」(12 名), 4~7 点の者を「肯定的感情群」(50 名) として分類し, 両群の幸福感得点を t 検定により比

較したところ, 有意な差が見られた (否定的感情群: 平均 32.5 点 ($SD=56.8$), 肯定的感情群: 平均 37.88 点 ($SD=51.86$), $t(60)=-2.30$, $p=.024$)。感情価の平均値と群分けより, 印象的な経験はおおむね肯定的な感情をもって想起されていることが示唆された。また, 肯定的感情が印象に残っている者は否定的感情が印象に残っている者より現在の幸福感が高いことも明らかになった。

次に感情群別に経験の内容を分類した (Table 1)。「その他」を除外すると, 最も多かったのは「部活」次いで「友人関係」「恋愛関係」であった。経験の時期は高校時代が最も多く (31 名), 次いで中学校 (18 名), 大学 (7 名), 小学校高学年 (3 名), 小学校低学年 (2 名) であり, 現在より時間的に近い経験から想起されていることがわかった。

Table 1 経験の内容と感情価

	学業	進路	友人	恋愛	家族	部活	特定不可	他	合計
否定的感情群	1		2	1	2	3	1	2	12
肯定的感情群	2	2	7	8	2	19	4	11	47
合計	3	2	9	9	4	22	5	13	67

次に, 現在における経験の意味づけの自由記述を分析したところ, 頻出語は「楽しい」(13)「残る」(8)「自分」「経験」「思い出」(7)「今」(6)「高校」(4)「好き」(4)「意味」「頑張る」(3) などであった。内容は「現在を生きる力 (鍛えられた, 強くなった, 自信など)」「現在への教訓・学び」(きちんとしようと思うきっかけになった, など)「現在身についた能力やスキル」(精神力, 忍耐力, 英語力, など)に分かれた。注目すべきは, 否定的感情で想起された経験でも, 肯定的な意味づけをしているものもあったことである。

さらに, 未来における経験の意味づけの自由記述を分析したところ, 頻出語は「自分」(6)「影響」(5)「楽しむ」(4)「社会」「看護」「役に立つ」(3) などであった。回答傾向としては現在における意味づけと似たものであり, 全く同じ回答をしている者もいたが, 頻出語からもうかがえるように, 社会に出た後の時点を意識しているようであった。否定的感情群はこの欄を空欄にしている者が多かったが, 記述している者には肯定的な意味づけをしている者が 3 名いた。

結論

肯定的な感情をもって想起される経験を持つ者の幸福感が高いという結果が得られた。現在への意味づけ, 未来における意味づけは似通っており, 生きる力, 身についたスキル, 教訓などに分類された。否定的な感情で想起される経験でも肯定的な意味づけがなされているのは注目に値する。

※発表に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はない

(HASHIMOTO Kyoko)